

大きな実りと平和を目指して

「再び春がめぐり、柳の新緑が輝く季節となりました。皆さん、お元気でしょうか。私たちの活動は、更に規模を広げながら、営々と続けられています。皆さんの心ある支えで30年を経過、かくも長く希望を分かち合えたことに感謝し、今後も更に大きな実りと平和を目指して、変わらぬお支えを切にお願い申し上げます」

——中村 哲 (ペシャワール会報115号、118号より)

中村医師念願の

バルカシコート堰建設が始まりました

PMS (ピース・エス・エム・エス・ディ・イカ・グループ) 支援室

皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。現地は一月に入って気温が20度を超える日もあり、雨はなかなか降らないとのこととです。

中村哲医師の逝去後、初めてPMSの職員たちだけで建設する新しいバルカシコート堰(バルは「上」の意)の工事がスタートして二カ月が経ちました。現場で働くエンジニアをはじめ、掘削機など重機の運転手、鉄筋組み班、コンクリート打設班や植樹班一同、緊張しながらの工事が進行しています。以下、現在の活動状況についてご報告を致します。

バルカシコート堰

工期は2020年十二月～二二年九月まで、灌漑面積は二三〇ヘクタールです。

昨年十二月末に着工したバルカシコート取水口は、マルワリード取水口の対岸カシコート取水口からさらに約2km上流に位置し、

クナール河の左岸にあります。カシコート取水口から上流に向け約四〇〇mはクナール河が最も狭まる場所で、九〇～一〇mの川幅が続きます。二〇一二年にPMSがカシコート堰を工事した折、左岸を掘削して川幅を約五〇m拡張した経緯があります。中村医師は当時、次のように記しています。

「上流約八〇〇m地点から急激に幅約1kmの河川敷が広がり、河道が縦横無尽に流れ無数の砂州を形成している。右岸はヌールガルの集落まで岩盤に沿って水深が大きく、左岸カシコート側は、約2km上流のサルバンド取水口(旧バルカシコート堰)まで浅い流れをなし、同取水口から更に上流は岩盤が迫っている」

二〇一〇年の大洪水ではこのバルカシコート村落にも洪水の流入があり、村民は難民化し農地は荒れたままになっていましたので、カシコート堰建設時にサルバンド取



水口付近まで護岸工事をしました。

旧バルカシコート堰は、コンクリートの突堤と二門のスライド式取水門で、片方のスライド門は砂で完全に埋まっています。突堤の先端に深掘れが生じて流れが取水口へ向かわず、村人たちは毎年突堤の先に木切れ、草切れ等をつないで堰上げを試みていました。

中村医師は、ここ数十年のクナル河の氾濫に翻弄され困り果てている村民たちを見かねて、応急処置を毎年ファヒーム技師に任せていました。そして、いつかはPMS方式で取水設備を建設しようと計画して

いたのです。

さて現在進行中の本工事は二月末までを目標に取水門、砂利溜め、コンクリート製の土砂吐き兼可動堰の建設、堰や護岸用の巨礫の蓄積に追われていました。クナル河の水位が上がってくる前に堰の石積みを終えなければなりません。斜め堰全体を完成させるには時間が足りないのです。まずは取水が出来るよう仮の堰（と言っても堰幅一〇m、堰長二〇m）を対岸の砂州に渡すところまでを目標にしています。今秋にその続きの石積みをして堰を完成させてゆく予定です。

PMS支援室は、遮水壁造った後に始められた取水門の建設に関して、基礎工事に注視しました。中村先生が言われるように、現地では後で見えなくなる基礎工事に力を注がない傾向にあるからです。毎日現地から送られてくる工事の写真を日本側の技術協力者の皆様に見て頂き、ご指導を仰ぎながら、また私たちPMS支援室も先に造ったカマ堰、マルワリードII堰、ミライン堰建設の同時期の写真を参考に疑問を投げかけ、現地と密に連絡を取りながら今日に至っております。

●ミライン堰 灌漑施設の改修工事

夏の増水期を経て、取水口への流路に砂



バルカシコート堰・取水門の工事風景。床面のコンクリート打設作業中。(2021年1月13日)

利、土砂が堆積して取水困難に陥っていました。そこでミライン堰の二カ所の土砂吐き・可動堰を閉鎖しました。バルカシコートの取水口の工事に目途がついた時点で、取水口への流路内の土砂を取り除き、四〇cmの水位を確保しました。

●カマ堰 砂州一部改修工事

夏の増水期を経て砂州右岸側の、護岸を施した砂州辺縁に沿って深掘れが発生。巨礫を投入し二月末に作業を終了しました。

●マルワリードII堰

堰に設けられた洪水吐きの深掘れがあり、

取水困難となった。掘削機のアームでの計測では深さ3mに及んだので、巨礫を投入して取水量を確保した。堰の損壊や石の配列の乱れ等は見られていない。数年間の観察・改修を繰り返し安定した堰になることを期待しています。

農業Ⅱ PMSガンベリ農場

ガンベリ農場の未開拓地の開墾が始まりました。ここは沙漠なので、砂と土の入替や、測量して平地にならず作業が八〇ジェリブ（二六ヘクタール）にわたって進行しています。安価で質が良い柑橘の苗を大量に



ガンベリ農場。オレンジの収穫風景（2021年1月19日）

買い付け、植え付けの時期に何とか間に合わせようと休日返上で頑張り、約三〇〇〇本の苗の植え付けが終了しました。みかんの収穫、サトウキビの収穫が行われています。

医療Ⅱ ダラエヌール診療所

一月の診療数四四七一人、検査数合計五六八件、マラリア検査二〇二件のうち陽性一〇件、てんかん五六人。

現在、ダラエヌール周辺に新型コロナウイルスの感染者は見られず、診療所の職員にも疑い及び感染者はおらず皆元気です。今年は、外来患者の待合室や診察室等を改善し、新型コロナウイルス対策として、職員たちの防護用備品等も充実してゆく予定です。

PMS取水方式の普及

干ばつが顕在化して中村先生が井戸事業を開始した二〇〇〇年当時と共に働いていたエンジニアが、最近PMSのジャラバード事務所を訪問しました。彼は現在クナール河の上流、ヌーリスタン州の政府の職に就いており、「ヌーリスタンで用水路を造って欲しい」と懇願したそうです。ジヤ医師は、「今は無理だが七年後ぐらいには行けるかも知れない」と答え、支援室からは「ヌーリスタンのエンジニアを六カ月か一年



PMSでは例年黒砂糖の生産が行われていたが、今年は収穫したさとうきびをバザールのジュース屋に出荷した。（2021年1月21日）

間PMSに預けたら現場での実地研修が可能である」と伝えてもらいました。各州から自発的に技術者がPMSへ送られ、実際の訓練が行われることを中村医師は期待しておられたので、いい兆しになることを願いました。

現在、JICA（国際協力機構）の事業で『PMS方式灌漑事業ガイドライン』（日・英・ダリ・パシュトゥ語版/DVD付き）の制作が進められています。各地の関係者を励まし希望をもたらず書になることを期待しています。